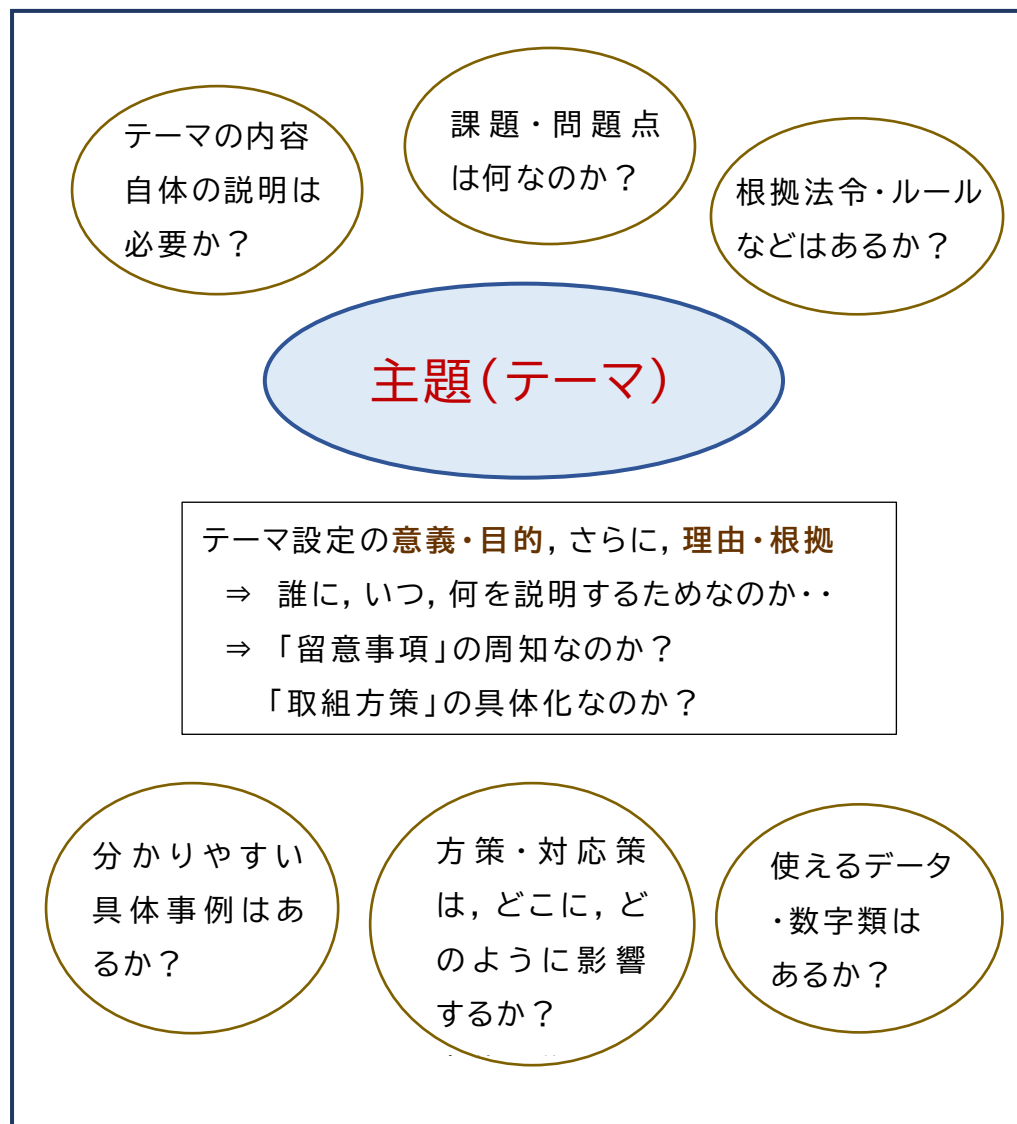
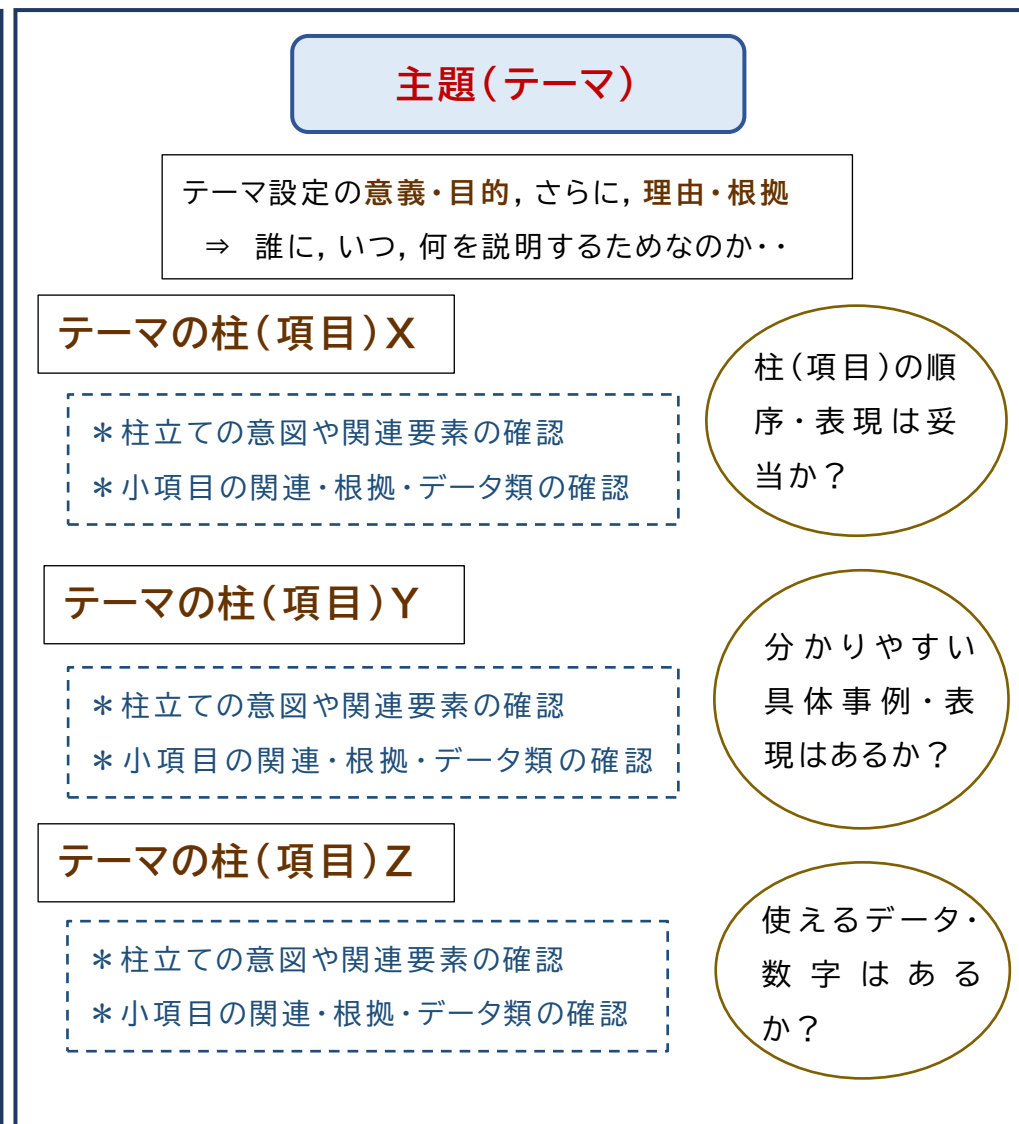


〔第一段階〕「主題(テーマ)」に関する関連情報・用語・データなどを、視点を変えながら「文字化」する。

事例 A (関連要素を挙げていき、繋がり・まとまりで整理)

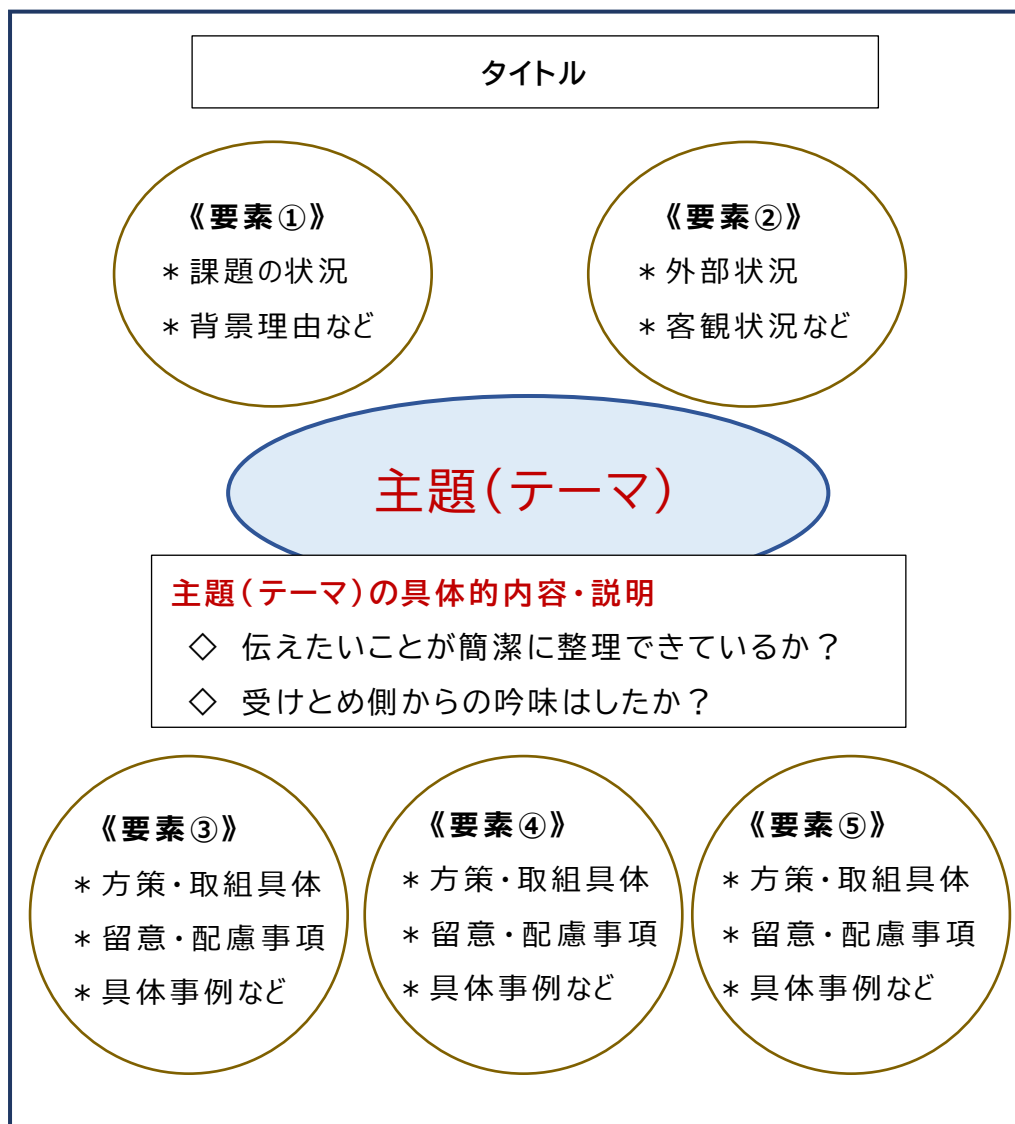


事例 B (柱立てを前提に、関連項目を整理)

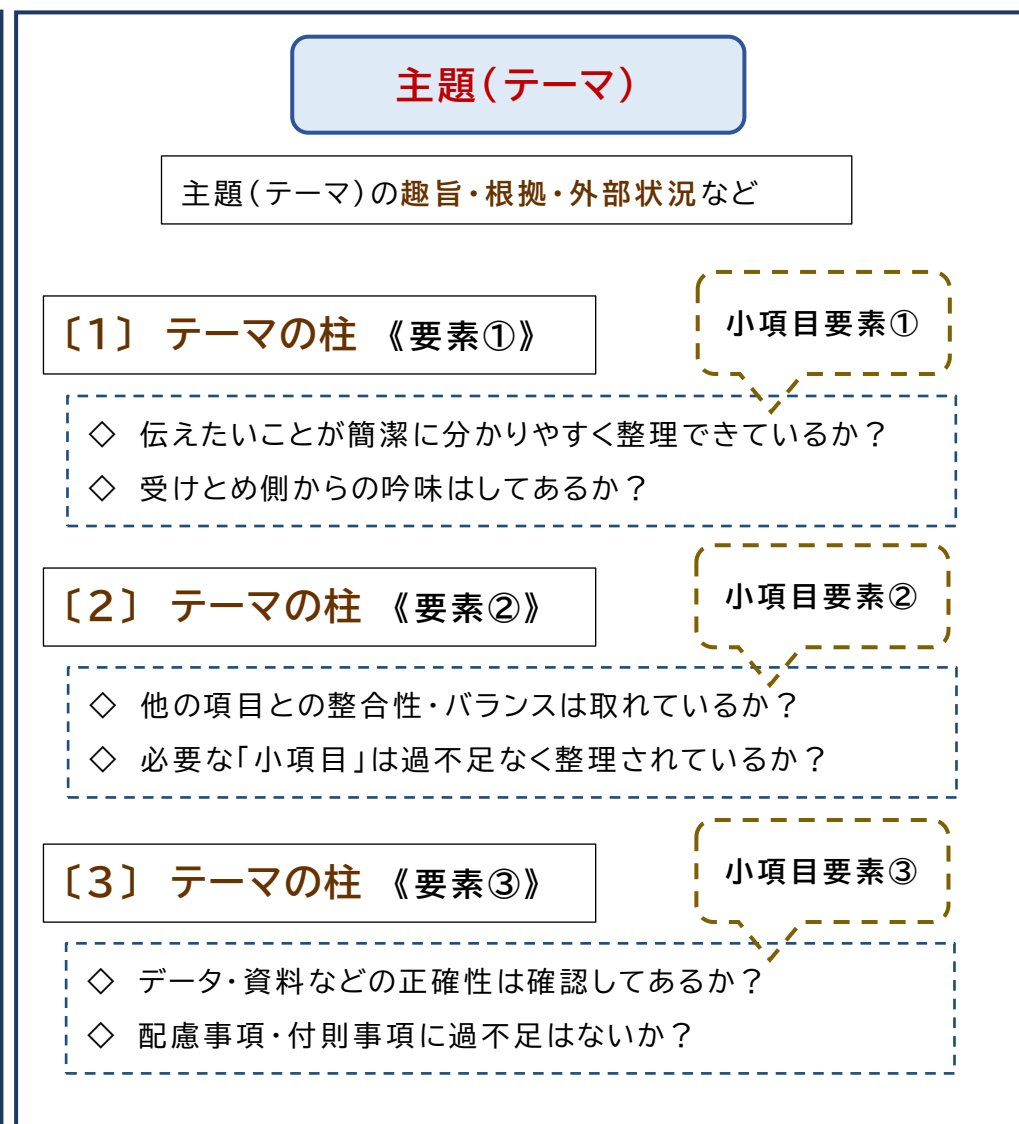


〔第二段階〕 主題(テーマ)と《要素》ごとの「繋がり・因果関係」等に注目して、全体構図(要素配置)を整える。

事例 A



事例 B



〔第三段階〕（使用頻度数の高いものなら）使用場面を意識して，《見栄え》を整える。

事例 A

令和 5 年度 授業改善の推進について

《現状・課題》

- * 学校のテーマにしているが不十分。
- * 取組が個々人に留まっている。

《外部状況》

- * 県内・近隣校でも取組が進んで成果が出ている。

《授業改善の組織的・計画的推進》

⇒ 本年度の最重点課題として取り組む

- ◇「組織的・計画的」に進めることが最重要！
- ◇次の3つの「方策」について、研修・意見交換して、具体策を4月中に固める。⇒ 実践と検証
- ◇「働き方改革の推進」と一体的に進める視点！

《相互授業観察》

- * 年間で2回設定
- * 方法の統一
- * 全員実施・参画
- ⇒ 分析・振り返り
- ⇒「良い授業例」を全員で選ぶ

《評価の改善》

- * 「単元」ごとの観点別評価の徹底
- * 基準と評価結果の教科内共有
- ⇒ ルールの明確化と他者点検

《ICT活用》

- * ICT用「振り返りシート」の基本形
- * ICT用「生徒の授業評価表」活用
- ⇒ 生徒も教員もメリットが大きい

事例 B

授業改善の組織的・計画的な推進について

- * 授業改善の取組が個々人の範囲に留まっていることから、令和5年度は次の3本柱で「組織的・計画的」に進めます。

〔1〕 相互授業観察の組織的・計画的な実施

- ① 1学期と2学期に期間を設けて、全員参画で計画的に実施。
- ② 「授業評価表」「観察方法」などの様式・ルールを揃えます。
- ③ 実施結果を集約・分析して、「良い授業例」を共有します。

〔2〕 観点別評価の水準向上と組織的な成績処理の徹底

- ① 「年間授業計画」に基づいて実施する観点別評価は、原則的に、「単元ごと(まとめごと)」に実施して、結果を共有しておく。
- ② 「マスタールーブリック」を活用して整合性の高い評価を行う。

〔3〕 生徒のICT習熟、教員の実務の効率化の観点からの活用促進

- ① ICT用「振り返りシート」書式の基本形を策定して、全体共有。
- ② 生徒による「授業評価」の集約にも活用して、効率的な処理。
- ③ 正確に組織的・効率的に行うことにより「働き方改革」に繋げる。

《留意点》

- ① 今回の取組により、「マスタールーブリック」の水準向上も図る。
- ② 今回の取組に必要な教員のICT活用技能向上の研修会を行う。
- ③ 具体策については、相互の意見交換・集約結果を反映させる。